

令和7年度 大友氏顕彰フォーラム in 大分 報告書

時間：10月25日・土曜 13:00～16:00 会場：大分センチュリーホテル

スタッフ名 10月定例会議プログラム記載の各位（大塚・植木・江藤・稻葉・吳藤・尾下ほか）
スタッフ集合／11:00（若杉・佐藤は10:30）

設営順：(1)ロビー展示作業、(2)ステージ周り(例会資料参照)、(3)受付コーナー、(4)書籍コーナー
『大友氏の風景』、在庫処分として寄付(@500)のお礼としてプレゼント

当日資料準備・若杉、冊子2種準備・佐藤・藤田)

スタッフのお茶(ペットボトル) 藤田、記録カメラ・録画・録音確認：若杉・佐藤・カメラ記録(藤田)

【プログラム】

12:30 受付開始

12:55 オープニング 歌唱：原川二郎

13:10 ごあいさつ 大友氏顕彰会理事長 若杉孝宏、NHK 大河ドラマ推進協議会会长 牧達夫

13:15 麻生栄作県議会議員、木田昇県議会議員、秦野恭義大分市議会議員、大分県企画振興部芸術文化振興課課長宮成智弘、大分市教育委員会文化財課課長安東孝浩、わさだ新都心協議会会长足立義弘

司会(木下)／適当に紹介する

13:30 第一部 基調講演 講師：牧達夫 「ルイス・デ・アルメイダの生涯」

14:30 質疑応答 ※同時にステージ転換（5名、若杉、佐藤、藤田、衛藤、稻葉、江藤）

14:45 第二部 座談会「大友氏の女性たち」 コーディネーター：若杉孝宏、パネラー 牧達夫、佐藤弘俊、木下和子。司会／大友氏の女性のみ取り上げるフォーラムはこの15年で初、内容はレジュメ参照。

導入部：古代天照大神に代表される太陽神の女性は、世界では日本のみ。日本は母系社会。

鎌倉初期の女性の立場と大友氏。この時代、家督以外の相続は男女平等だった。

主な内容：詳細は別紙「レジュメ」参照

- ① 北条政子の薰陶を得たはず、能直正室風早深妙はこどもたちの所領分配を差配。2代親秀の後室は太政大臣源通光の妻、その娘たちの嫁ぎ先が皇室や上級貴族の不思議。
- ② 氏泰・氏時兄弟が大友始祖能直の母親・利根局の菩提を弔うため吉祥寺建立の意味。
- ③ 宗麟の奈多夫人(悪妻か悲運の女性か問題)のこと、戦国時代の女武将、吉岡妙林尼、立花宗茂母・宗雲尼と宗茂妻闍千代のこと。※過去の『大友氏の風景』数号に掲載をPR。

15:50 終了 御礼あいさつ(佐藤弘俊・11月の国東フォーラムおよび府内フェスタのイベント紹介)

以上はプログラムの記述だがほぼこの通りに実施された。当日の来場者数は58名。内訳はスタッフ含む会員13名、一般39名、来賓6名であった。

理事長あいさつで「足元の悪い中ご来場いただき感謝しています。ただ今日は市街中心部で夢色音楽祭が開催されており、開催直前、中心街の駐車場が満杯でいけないという連絡が数件あり、そんな影響で過去最低の参加になったと思われます。しかしながらそんな中でもご参加いただいた皆様はアルメイダや大友氏への関心も高く、これから基調講演や座談会の内容が濃いものとなることを期待しています」と述べた。

基調講演では大友氏顕彰会名誉理事長および大河ドラマ推進協議会会長の牧達夫が「アルメイダの生涯とその親友大友宗麟」の出会いから豊後で実現した事業は、現在の日本の医療発展に大きな足跡を残した。アルメイダ病院の名称はまさにその遺徳をしのぶものだ。と熱弁をふるった。45分間と短かったがそれだけ聴衆の耳に残ったのではないかと思う。

続いて「大友氏の女性たち」というテーマで若杉理事長の進行で進めた。日本の歴史は男尊女卑の歴史だったと一般的に思われるがちであるが、それは江戸時代から特に明治以降に醸成されたもので、日本は古来母系社会で女性が個人生活から社会に及ぼした影響は男性以上のものがあった。

神話の世界から平安時代の通い婚、また鎌倉初期の武家では子供たちの所領配分は男女平等だったことなど記録に残る事例を挙げながら討論した。特に今回司会の木下和子を加えたことにより女性の立場からの発言が聞かれ、議論が深まったことは今までないことだったと自負している。

フォーラムの出来としては今回は今までと少し異質であったが新機軸を吹き込んだという意味で成功だったと思うが、惜しむらくは来場者の減少である。

冒頭で述べた原因のほか過去14年間開催してきた成果でもあったのではないか。つまり一般市民に大友氏が広く認知されてきており、歴史ファンの認知度が飽和状態に近づいてきた、との解釈である。この考え方には再考の余地がある。あと開催時期も課題としたい。





来賓の方々よりのご挨拶／下左より：木田昇県議会議員、麻生栄作県議会議員、秦野恭義大分市議会議員、足立義弘わさだ新都心協議会長、宮成智弘大分県文化振興課長、安藤孝浩大分市文化財課長

